



石垣、塀、櫓などの被災記録が残る名古屋城(中区)



天白川の氾濫を避けて移転した後、明治24年(1891)濃尾地震によって倒壊した栄久寺(天白区)



歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド 名古屋編

先人たちが伝えようとしたことに、
耳を傾けてみんかのお



日泰寺に残る大正12年(1923)関東大震災の史跡(千種区)

関東大震災供養堂	関東大震災 惨死者供養塔	関東大震災 横死者追悼之碑	橘宗一の墓

昭和19年(1944)昭和東南海地震で亡くなった
57人の名前が刻まれている東南海地震の碑(南区)

明治24年(1891)濃尾地震で倒壊した尾張紡績の工場(写真左)と、
圧死した従業員39人を吊うために建立された雲心寺の震災弔魂碑(写真右)(熱田区)



※このパンフレットは、市町村誌や体験談集など地域に残る記録を参考に作成したものです

1

No	中区	碑史跡	エリア
1	正木町遺跡		B2
2	名古屋城三の丸遺跡		B1
3	栄2丁目付近		B2
4	名古屋城*		B1
5	東照宮神社		B1
6	須佐之男神社		B1
7	霊山寺		B2
8	名古屋芝居濫觴跡*(橋座跡)		B2
9	東本願寺別院茶所		B2
10	長栄寺		B2
11	栄3丁目付近		B2
12	若宮神社		B2
13	朝日神社		B2
14	万年寺		B2
15	萬松寺		B2
16	政秀寺*		B2
17	富士見町遺跡		B2
18	榮運寺		B2
19	県庁・県会議事堂		B2

2

No	中村区	碑史跡	エリア
1	禅養寺		A2
2	定徳寺		A1
3	正賢寺		A2
4	願成寺		A2
5	光明院		B1

No	中川区	碑史跡	エリア
1	速念寺		A2
2	長伝寺		A2
3	観音寺(荒子観音)*		A2
4	安養寺		B2
5	長圓寺		B2
6	願興寺		B2
7	円泉寺		B2

3

No	熱田区	碑史跡	エリア
1	専光寺		B2
2	船方小学校		B2
3	雲心寺(震災弔魂碑)*	○	B2
4	熱田の燈明台		B2
5	興徳寺		B2
6	西浜御殿		B2
7	西福寺		B2
8	熱田赤本陣		B2
9	熱田神宮(佐久間灯籠)*	○	B2
10	金山付近		B2
11	円通寺		B2

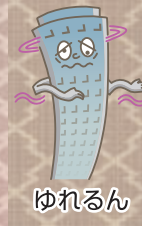
A

No	西区	碑史跡	エリア
1	東海豪雨水害の碑	△	A1
2	東枇杷島付近		A1
3	清音寺		A1
4	東雲寺		B1
5	法源寺		B1
6	海福寺		B1
7	浅間町付近		B1
8	興西寺		B1
9	陽岳寺		B1
10	大乃木(大乃伎)神社*		B1

B

No	港区	碑史跡	エリア
1	南陽神社		A2
2	徳照寺		A2
3	稲永新田*		A3
4	大江付近*		B2
5	電宮町付近		B2
6	昭和町付近		B3

※: 解説ページあり ○: 地震に関係する碑・史跡
 ◎: 地震・津波に関係する碑・史跡
 △: 高潮・波浪に関係する碑・史跡



名古屋市の被災状況

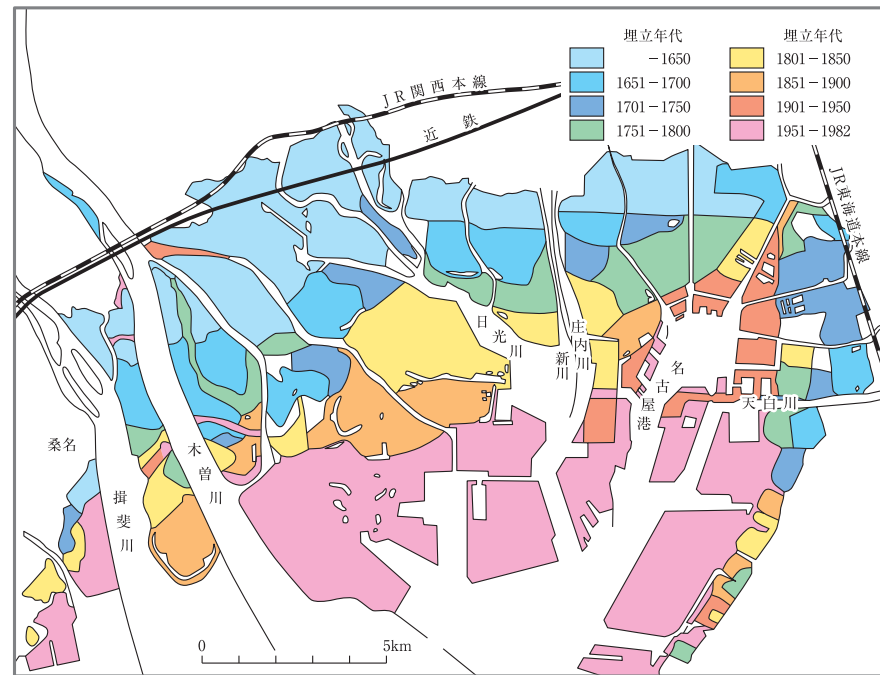
宝永4年(1707)宝永地震の際には、建物被害、石塔等の倒壊、熱田への津波襲来、地割れ、泥水の噴出、堤防の破損が発生しています。

文政2年(1819)の地震の際は、建物被害、石垣・塀等の破損・倒壊、石灯籠・墓石の転倒・回転など構造物の被害が発生しています。

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では、建物の全壊・半壊、塀の破損・倒壊、石灯籠の倒壊のほか、天白川が破堤しています。沿岸部を襲った津波は、堀川を逆流して尾頭橋あたりまで達し、堤防を越えて堀川以西一帯に浸水しています。大江新田(滝春町付近)・当米新田(南区加福町付近)・甚徳新田(港区船見町付近)・豊宝新田(港区本星崎町付近)でも床上まで浸水しています。

明治24年(1891)濃尾地震では、建物の全壊・半壊、地割れ、水の噴出、火災、堀川に架かる橋の破壊、江川氾濫、井戸水の噴出が発生しています。鳴海町では井戸水が1~2m以上も増水またはあふれ出し、岩塚町では井戸水が微温湯となったとされています。中村区で1000余ヶ所で噴砂があり、ため池の堤防が破堤、猫ヶ洞の大ため池の堤防が崩壊し、人家、耕地数10haに浸水し、下流の田代町では人家1棟が流失したとされています。このほか、落橋、道路、海岸堤防、河川堤防に至る所で損壊し、樋管・ため池・水路の損傷も多かったとされています。

昭和19年(1944)昭和三河地震では、地割れ、地盤沈下、砂、泥、水の噴出、家屋の全壊・半壊、水道管の破裂、市電軌道の破損、電柱・灯籠な



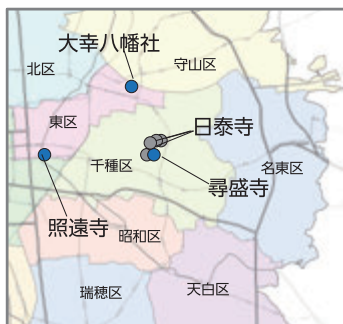
濃尾平野干拓・埋立年代の模式図(「最新名古屋地盤図」(社)土質工学会中部支部)を参考に作成)

どの倒壊が発生しています。名古屋港では土地の隆起もみられ、機能も停止したとされています。地盤沈下、噴砂、噴水等は、名古屋港周辺が干拓・埋立によって形成された陸地であることも一因と

考えられます(上図参照)。

昭和20年(1945)三河地震では、軟弱な地盤の場所を中心に家屋の倒壊、稲永新田で噴水・噴砂が発生しています。

災害を今に伝える史跡など 千種区、東区



大幸八幡社(震災記念碑)
所在地:名古屋市東区大幸
交通:地下鉄名城線「砂田橋」より北 約400m

碑には、堤防の決壊による水害や、明治24年(1891)濃尾地震の際に、天皇の救恤や各地の義捐金によって地区が復旧し、救援を感謝することが記されています。
(救恤:きゅうじゆつ。困っている人に見舞いの品などを与えて救うこと)

尋盛寺(濃尾大震災犠死者供養塔)
所在地:名古屋市千種区城山新町
交通:名古屋営バス「姫ヶ池」より東 約300m

濃尾地震の供養碑で、「七千百十五人精霊」と刻まれています。岐阜県海津郡西江村(現在の海津市)の女性によって建立されています。

日泰寺(関東大震災の史跡)
所在地:名古屋市千種区姫池通(左記の所在地は、関東大震災供養堂のもの)
交通:名古屋営バス「姫ヶ池」より東 約50m

大正12年(1923)関東大震災で愛知県の人々は、官民挙げて救済費の支出や救援物資の輸送、救護班の派遣など、惜しみない協力を行っています。日泰寺には、奉安塔の入口に、関東大震災供養堂(写真左上)があるほか、地下鉄自由ヶ丘駅のすぐ近くにある日泰寺の八十八ヶ所霊場には「犠死者供養塔」(写真左下)があり、関東大震災の混乱の中で非道な大人によって殺された罪もない橘宗一少年の墓(写真上右)も残されています。また、関東大震災犠死者追悼之碑(写真下右)は、日泰寺墓地内に建てられていたものの、昭和34年(1959)伊勢湾台風で倒れ、そのままになっていました。その後、報道をきっかけに、建設者探しが始まり、当時の名古屋市東区蒲焼町(現在の中区錦3丁目)の青



年会が関東大震災の犠牲者を悼んで建設したことが判明しました。現在では碑は再建されています。なお、日泰寺は、どの宗派にも属していない超宗派の寺院で、タイ王国から寄贈された仏舎利(お釈迦様の遺骨)が安置されています。

照遠寺
所在地:名古屋市東区東桜
交通:地下鉄東山線「新栄」より北西 約300m

照遠寺は慶長15年(1610)に清州越して名古屋に移ったお寺です。境内には大正12年(1923)関東大震災(写真左)と明治24年(1891)濃尾地震(写真右)の供養碑があります。



災害を今に伝える史跡など 西区、守山区

大乃木(大乃伎)神社
所在地:名古屋市西区大野木
交通:地下鉄鶴舞線「庄内緑地公園」より東 約1.2km

大乃木神社は庄内川右岸堤内地に鎮座しており、過去洪水にたびたび見舞われています。拝殿は、明治24年(1891)濃尾地震で損壊したため応急修理し、その後明治32年(1899)に大修理が行われています。



長命寺(濃尾震災慰霊碑)
所在地:名古屋市守山区白沢町
交通:名古屋市営バス「牛牧住宅」より北 約400m

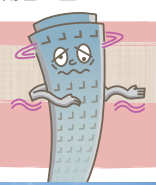
明治24年(1891)濃尾地震により、長命寺は観音堂が全壊したほか、昭和19年(1944)昭和三河地震でも、建具等損傷の記録が残されています。また境内には「尾濃 震災死亡人記念碑 両国」と記された、濃尾地震の碑が確認できますが、建碑の経緯については分かっていません。



大永寺
所在地:名古屋市守山区大永寺町
交通:名古屋市営バス「二城小學校」より東 約200m

「守山市史」によれば、明治24年(1891)濃尾地震により、大永寺では伽藍(がらん)が倒壊し、位牌堂のみ残ったとことです。また昭和19年(1944)昭和三河地震では、庫裡が倒れ、本堂の柱がいざった(移

動した)との記録が残されています。なお、昭和三河地震(12月7日)の15日後には、現在の守山区大永寺町、瀬古、幸心などに大型爆弾による空襲があり、多数の死傷者が出ています。



災害を今に伝える史跡など 中区



名古屋城
所在地:名古屋市中区本丸
交通:地下鉄名城線「市役所」より北西 約400m

名古屋城における、主な被害記録を「名古屋市史」「愛知県災害誌」から抜粋してみると、石垣や土塀の崩壊が多く発生しています。
【寛文9年(1669)地震】石垣が少しくずれた(災害誌)
【宝永4年(1707)宝永地震】土塀やぐらはほとんど損傷した(市史)
【享和2年(1802)地震】本町門の石垣崩壊(災害誌)
【文政2年(1819)地震】石垣がところどころ破損(災害誌)
【嘉永7年(1854)安政東海・南海地震】三の丸の門、高塀などが破損し、武家屋敷147カ所も破損が見られた(市史)
【明治24年(1891)濃尾地震】本丸・深井丸、二之丸周囲の石垣上の多間櫓は壁、屋根等に大被害を受けた(災害誌)



名古屋芝居濫觴跡(橋座跡)
所在地:名古屋市中区橋
交通:地下鉄名城線「東別院」より北西 約400m

橋町は名古屋の芝居公許地として最も古く、寛文5年(1665)から、春秋二回芝居興行が認められていました。東西の名優が競って来演し、大変栄えたようです。その後中絶と再興を繰り返しますが、明治24年(1891)濃尾地震によって橋座は倒壊し、ついに途絶えてしまいました。現在では、説明看板(写真左側)だけが立っています。



政秀寺
所在地:名古屋市中区栄
交通:地下鉄名城線「矢場町」より南西 約400m

明治24年(1891)濃尾地震により本堂、庫裡等がごとごとく倒壊し、その後三年間かけて修繕が行われました。また周辺では、濃尾地震で、裏門前町の万年寺、門前町の性高院、金沢町の全性寺、東本願寺別院茶所が倒壊しています。



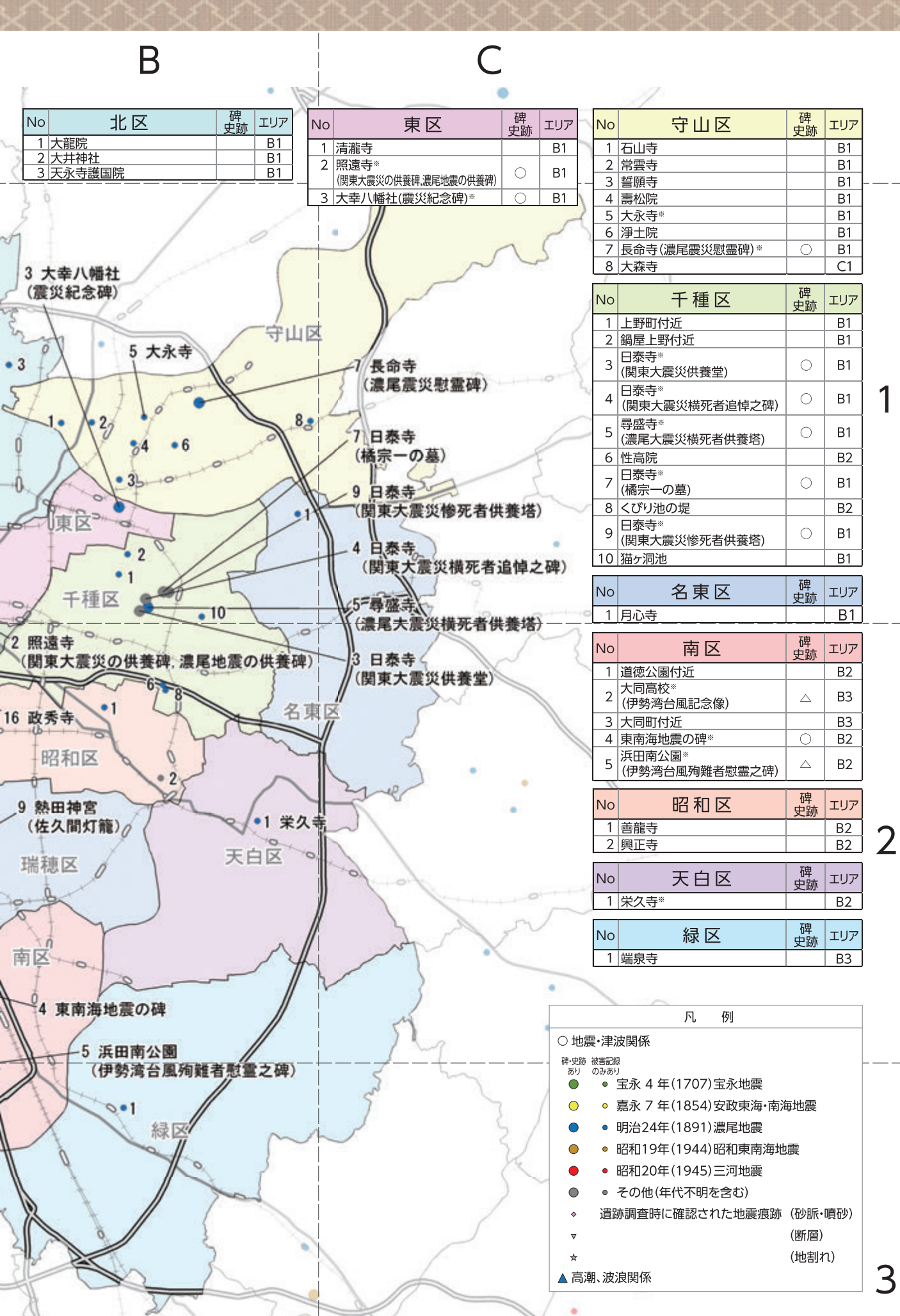
災害を今に伝える史跡など 天白区

栄久寺
所在地:名古屋市天白区植田
交通:地下鉄鶴舞線「塩釜口」より東 約500m

栄久寺は文明12年(1480)の創建で、当初は飯田街道(国道153号)より南側に位置していましたが、天白川の度重なる洪水に悩まされ、寛延3年(1750)に、現在地へ移転しています。その後、明治24年(1891)濃尾地震で堂宇が

大破し、昭和初期にかけて本堂・庫裡・鐘楼などを再建しています。再建にあたっては、道路が整備されていないことから、周辺の田んぼを使って資材を運ぶなどの苦労があったということです。





No	北区	碑史跡	エリア
1	大龍院		B1
2	大井神社		B1
3	天永寺護国院		B1

No	東区	碑史跡	エリア
1	清瀧寺		B1
2	照遠寺* (関東大震災の供養碑、濃尾地震の供養碑)	○	B1
3	大幸八幡社(震災記念碑)*	○	B1

No	守山区	碑史跡	エリア
1	石山寺		B1
2	常雲寺		B1
3	誓願寺		B1
4	壽松院		B1
5	大永寺*		B1
6	浄土院		B1
7	長命寺(濃尾震災慰霊碑)*	○	B1
8	大森寺		C1

No	千種区	碑史跡	エリア
1	上野町付近		B1
2	鍋屋上野付近		B1
3	日泰寺* (関東大震災供養堂)	○	B1
4	日泰寺* (関東大震災横死者追悼之碑)	○	B1
5	尋盛寺* (濃尾大震災横死者供養塔)	○	B1
6	性高院		B2
7	日泰寺* (橘宗一の墓)	○	B1
8	くびり池の堤		B2
9	日泰寺* (関東大震災横死者供養塔)	○	B1
10	猫ヶ洞池		B1

No	名東区	碑史跡	エリア
1	月心寺		B1

No	南区	碑史跡	エリア
1	道徳公園付近		B2
2	大同高校* (伊勢湾台風記念像)	△	B3
3	大同町付近		B3
4	東南海地震の碑*	○	B2
5	浜田南公園* (伊勢湾台風殉難者慰霊之碑)	△	B2

No	昭和区	碑史跡	エリア
1	善龍寺		B2
2	興正寺		B2

No	天白区	碑史跡	エリア
1	栄久寺*		B2

No	緑区	碑史跡	エリア
1	端泉寺		B3

凡例	
○	地震・津波関係
●	碑・史跡 被害記録あり
●	● 宝永4年(1707)宝永地震
●	● 嘉永7年(1854)安政東海・南海地震
●	● 明治24年(1891)濃尾地震
●	● 昭和19年(1944)昭和東南海地震
●	● 昭和20年(1945)三河地震
●	● その他(年代不明を含む)
◇	遺跡調査時に確認された地震痕跡(砂脈・噴砂)
▽	(断層)
*	(地割れ)
▲	高潮・波浪関係

災害を今に伝える史跡など

※この地図は、主に市町村誌や体験談等を参考に、地震に関する碑・史跡や、被害記録がある地点をプロットしたものです。



1



2

3



この地区ではこんな災害も… ＜亥年の洪水＞

明和4年(1767)に「亥年の洪水」と呼ばれる洪水が発生しています。この洪水の際に、堤防が切れ、出水し浸水被害が発生しています。また、長母寺(守山区)北の山が崩れて矢田川の流路が変わり、長母寺と宝勝寺(東区)の間を流れるようになったとされています。

こんな話もあります 昭和東南海地震と戦争

昭和19年(1944)昭和東南海地震は太平洋戦争中に発生した地震で、被害の状況はほとんど報道されませんでした。しかし、地震は世界各国の地震計により観測・記録されていたこと、米軍機による航空写真が残されていることなどから、連合国側は被害状況を把握していたとされています。また、地震被害を心理戦に使ったピラがB29から投下されたとも言われています。なお、この地震の直後には名古屋地域の空襲が行われています。

つとせ 人々驚く大地震
美濃や尾張の哀れさは
即死と負傷人数知れず
二つとせ 夫婦も親子もあらはこそ
あれと言つまいふさきと
一度に我が家が皆倒れ
三つとせ 見ても怖ろし土けむり
泣くのも哀れな人々が
助けておくれと呼び立てる
四つとせ 残りに逃げ出す間もあらず
残りし親子を助けんと
もどりに死ぬとほつゆ知らず
五つとせ いかい柱に押さえられ
命の危ぶさその人は
やぶりに連れ出す人もある
六つとせ 向ふから火事じやと騒ぎ出す
こなたで親子やつれあいや
倒れし我が家ふせこまれ
七つとせ 何といたして助けよと
慌てるその間に我が家まで
どつと火の手が燃え上がる
八つとせ 焼けたに思えどよりつげず
目に見て親子やつれあいや
焼け死ぬその身の悲しさや
九つとせ こちやかしこで炊き出しを
したして難儀な人々を
神より食事を与えられ
十とせ 出ばりて療治は無料なり
哀れな負傷人助け出す

参考情報

「鸚鵡籠中記」・「朝林」・「蓬左文庫」

この地域には、「鸚鵡籠中記」や「朝林」といった古文書も残されています。「鸚鵡籠中記」は、元禄の頃、尾張藩の尾張徳川家の家臣であった朝日重章の日記です。元禄16年(1703)の元禄地震、宝永4年(1707)宝永地震について、名古屋城下を中心とした被害状況についても記載されています。「朝林」は尾張藩の儒学者堀貞高父子が編集した幕府関係の日記です。幕府の動向や事件、災害などが記録されています。「蓬左文庫」は、主に尾張徳川家の旧蔵書を所蔵する公開文庫です。「蓬左」とは名古屋のこと(蓬萊の宮(熱田神宮)の左側にある町)です。「鸚鵡籠中記」も「蓬左文庫」に収蔵されていました。

先人の声を聞き活かしていくことが大切なじや

げんさい 減斎さん
昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。

●「徳川吉宗」と「徳川宗春」
徳川吉宗と宗春は、度重なる大火事や飢饉による財政危機に対して、異なる政策で解決を図ったとされています。徳川吉宗は、紀州藩主だった際に、宝永4年(1707)宝永地震からの復興に力を注ぎました。その後、将軍となり、質素倹約・規制強化策により幕府財政の再建に努めました。徳川宗春は、同時期の尾張藩主で、開放政策・規制緩和策により、倹約令で停滞していた名古屋の町を繁栄させたとされています。その後、政策の違いにより隠居謹慎となっています。

豆知識

濃尾地震の「震災数え歌」

この数え歌は、地震の悲惨な状況を後世に伝え、二度と同じ悲劇を繰り返さないでほしいという思いを込めて作られたものです。岐阜県大垣市在住の方が親から聞いて覚えていたもので、「濃尾地震100年記念誌」に記録されました。

※負傷人(けがにん)は、この数え歌の中での読み仮名です。

- ### 防災・減災のための 一口メモ
- 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
 - 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掴んでおきましょう。
 - 先人の声(警鐘)に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
 - 地震後の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
 - 現代の有益なサービス(緊急地震速報、地域のメールサービスなど)を利用して、落ち着いて行動しましょう。
 - 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
 - 被災時には、まずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

- ### 関連情報
- 歴史地震を調べる際には、図書館や、愛知県公文書館、名古屋市蓬左文庫などの公開文庫が役立ちます。
 - 地震の際の体験談がまとめられています。「地震体験記録集-関東大震災・東南海地震・三河地震-」(愛知県)「濃尾地震生き証人の記録」(愛知県)など(愛知県図書館、名古屋市図書館などでご覧になれます)
 - 愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅(木造)の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「防災学習システム」を公開しています。
- <http://www.quake-learning.pref.aichi.jp>

この資料について 此の資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただききっかけになれば、との思いから作成されたものです。この資料を作成するにあたり、下記の方々のほか多くの方々のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〈作成協力〉 | 歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会 委員長:武村 雅之 委員:加藤 規博 隈本 邦彦 栗田 暢之 近藤 ひろ子 佐藤 克彦 (敬称略) 鈴木 康弘 都築 充雄 服部 俊之 廣井 悠 福和 伸夫 溝口 常俊 護 雅史 山中 佳子(50音順で記載)

災害を今に伝える史跡など

熱田区、中川区

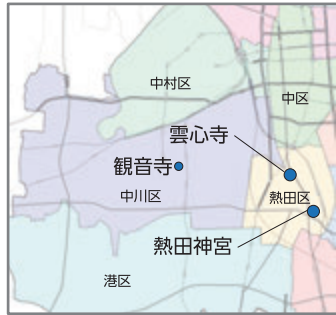
● 雲心寺 (震災弔魂碑) 地図 B2

所在地:名古屋市中川区尾頭町
交通:地下鉄名城線「西高蔵」より北西 約200m



震災弔魂碑は、明治24年(1891)濃尾地震の際に、尾頭橋の近くにあった尾張紡績の工場が崩壊し、その際に圧死した従業員39人を弔うため、雲心寺に建立された碑です。

尾張紡績の工場はレンガ造りで、当時の人々には堅牢な建物と思われていましたが、機械が2階に据え付けてあったことから激震で床が崩れ落ち、多くの従業員が死傷したとされています。



● 熱田神宮 (佐久間灯籠) 地図 B2

所在地:名古屋市中川区神宮
交通:名鉄名古屋本線「神宮前」より西 約200m

熱田神宮は、三種の神器の一つである草薙剣をご神体としてお祀りしている神社で、熱田台地の南端にあります。このため、宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の津波の浸水を免れています。

佐久間灯籠は、熱田神宮の正参道と東参道の合流点に建てられています。

「熱田区の歴史」によれば、この灯籠は、愛知県御器所城主佐久間盛次の四男である勝之が海上で台風に遭いながら、難を逃れたことから、寛永7年(1730)、そのお礼として寄進したと伝えられています。灯籠は明治24年(1891)濃尾地震などにより3度倒壊していますが、いずれも復元されています。



● 観音寺 (荒子観音) 地図 A2

所在地:名古屋市中川区荒子町宮窓
交通:あおなみ線「荒子」より南西 約600m

荒子観音は、江戸時代から尾張四観音の一つとして重んじられてきた観音寺です(残り三つは、笠寺観音、龍泉寺観音、甚目寺観音)。本堂は明治24年(1891)濃尾地震で倒壊し、その古材を用いて仮堂が建てられました。



災害を今に伝える史跡など

港区、南区

● 稲永新田 地図 A3

所在地:名古屋市中川区野跡
交通:あおなみ線「野跡」より北西 約800m

昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震によって、稲永新田の航空機工場では噴砂、噴水、地割れ、地盤沈下が発生しています。また稲永新田はこれらの地震と空襲で、壊滅状態になったとの記録が残されています。



● 東南海地震の碑 地図 B2

所在地:名古屋市中川区豊田 名南ふれあい病院
交通:名古屋市営バス「三新通二丁目」より南すぐ

昭和19年(1944)昭和東南海地震で、軍事工場の建物が倒壊し、動員されていた労働者と学徒ら51人に加え、朝鮮女子勤労挺身隊員6人が犠牲になりました。この碑は慰霊のために建てられたもので、碑には「悲しみを繰り返さぬようにここに真実を刻む」と書かれています。



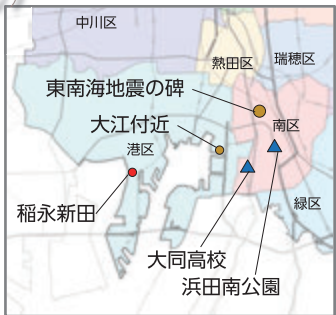
● 港区大江付近 地図 B2

所在地:名古屋市中港区大江町
交通:名鉄築港線「東名古屋港」より西 約600m

名古屋市南部では、昭和19年(1944)昭和東南海地震によって、地割れ、水・土砂の噴出、家屋の全壊・半壊が各所で見

られました。また、名古屋港も機能を停止するとともに、臨海部の工場は大打撃を受けました。

なかでも埋立地に造られていた大江の航空機工場は、床の亀裂、泥水の噴出などにより、生産は一時完全に停止したとされています。翌昭和20年(1945)三河地震では、昭和東南海地震で半壊となった工場が全壊したとの記録もあります。



災害を今に伝える史跡

伊勢湾台風編

▲ 大同高校 (伊勢湾台風記念像) 地図 B3

所在地:名古屋市中南区大同町
交通:名鉄常滑線「大同町」より東 約100m

「愛と力の筏」と名付けられたブロンズ像です。筏(台座)には、高潮水位が記されています。この像の銘板には、伊勢湾台風時の高潮の状況、生徒達の献身的な活動などが記載されています。この像は、これらの活動を長く伝えるために建てられたものです。



▲ 浜田南公園 (伊勢湾台風殉難者慰霊之碑・くつ塚) 地図 B2

所在地:名古屋市中南区浜田町
交通:JR東海道本線「笠寺」より南 約1.5km

この公園は、伊勢湾台風の慰霊のために設置されています。公園内にある「伊勢湾台風殉難者慰霊之碑」の裏面には、当時の状況のほか、水害にあわれた人達の遺品の雨靴が道路わきに積み重ねられたこと、殉難者の遺骨を安置してご冥福をお祈りすることなどが記載されています。



愛知県における主な被害地震と気象災害



時代	愛知県の主な被害地震(震は地域での影響が大きかったもの)	主なできごとと気象災害等
奈良	和銅8年[壘電元年] (715) 5月、三河・遠江に地震。三河東部では、正倉(穀物や財物を保管する倉庫)の破壊、民家の埋没等の被害あり。	(694)藤原京に遷都、(710)平城京に遷都 (729)長屋王の変、(740)藤原広嗣の乱(北九州)、恭仁京(京都)に遷都 (744)難波宮(大阪)に遷都、紫香楽宮(滋賀)に遷都→平城京(京都)に遷都→(794)平安京(京都)に遷都
平安	嘉保3年[永長元年] (1096) 11月、永長の東海地震。震源地は熊野灘沖。東海道沿岸では津波の被害あり。 保安5年[天治元年] (1124) 2月、尾張を震源とする地震。海東郡(海部地域)の甚目寺が地震で破壊。	(1083)後三年の役(~1087) (1124)中尊寺金色堂建立 (1185)屋島の合戦、壇の浦の戦い (1192)源頼朝、征夷大将軍になる (1333)鎌倉幕府滅亡、建武の新政
鎌倉	—	(1192)源頼朝、征夷大将軍になる
室町(南北朝)	—	(1333)鎌倉幕府滅亡、建武の新政
室町(戦国)	明応7年(1498) 6月、三河、強震。豊川の河流が変化。 明応7年(1498) 8月、明応の東海地震。東海道地方に激震。紀伊半島から房総半島で大津波により大災害。浜名湖が外海とつながり(今切)、安濃津が陥没し海になったといわれている。 永正7年(1510) 8月、尾張、三河に地震。定光寺(瀬戸市)で本堂大破。津波発生(高潮の可能性もある)。	(1467)応仁の乱おこる、(1493)明応の政変、(1497)大雨で豊川が大洪水 (1510)三浦の乱
安土・桃山	天正13年(1586) 11月、天正地震。近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数に及び、真清田神社(一宮市)の楼門、回廊、社殿などが全半壊、岡崎城が破壊。法性寺(あま市)なども倒壊。津島では大地震による田畑の陥没で約96ヘクタールが永荒地になる被害あり。長島城(桑名市)も倒壊。 文禄5年[慶長元年] (1596) 閏7月、慶長伊予地震、慶長豊後地震、慶長伏見地震。尾張で強震。津波発生。 慶長9年(1605) 12月、慶長地震。房総沖と南海道沖に殆ど同時に大地震。津波は犬吠岬から九州に及び、各地で甚大な被害を受けた。片浜の舟も被害あり。	(1582)本能寺の変、山崎の戦い、(1583)賤ヶ岳の戦い、(1584)小牧・長久手の戦い (1586)大雨で木曾川が大洪水。河道が変化。尾張・美濃の沿岸地域で大水害 (1590)豊臣秀吉が天下統一 (1592)文禄の役(~1596)、(1597)慶長の役(~1598)、(1600)関ヶ原の戦い
江戸	寛文2年(1662) 5月、寛文の近江・若狭地震。近畿・東海地方大地震。家屋、人畜の被害甚大。犬山城石垣破損。田原方面の民家、田畑、河川等の被害も大きかった模様。 寛文6年(1666) 4月、尾張・知多半島に津波が来襲し、新田を破壊。ただし、地震の記事がないため、地震津波が高潮かは不明。 寛文9年(1669) 6月、尾張で地震。名古屋城の石垣崩れる。 延宝5年(1677) 10月、延宝の房総沖地震。関東南部に地震があり、津波があった。震源は磐城沖。尾張にも津波があったといわれるが詳細不明。 貞享2年(1685) 3月、三河渥美郡に大地震があり、山崩れ、家屋倒壊あり。人畜多数が死亡。 貞享3年(1686) 8月、三河・遠江で強震。震源地は渥美半島の北東端、または遠州灘。田原では、田原城の櫓、武家屋敷、町家等が破損し、死者があった。 元禄16年(1703) 11月、元禄の関東地震。関東・東海地方に大地震。津波により、渥美では死者が多く、船、網等が流失。知多でも人家の倒壊、流失多数。 宝永4年(1707) 10月、宝永地震。津波、山崩れあり。人馬多数死亡。田畑に海水入る。町家、寺社、土蔵、堤防など破壊、橋が落ちる。地割れ、泥水噴出。	(1603)徳川家康、征夷大将軍となる (1605)大雨・洪水で尾張・三河ほかで被害 (1614)大坂冬の陣、(1615)大坂夏の陣 (1650)水害。大雨で木曾・長良・揖斐の三川が大出水し各所で破壊(大寅の洪水)、(1651)由井正雪の乱、(1657)明暦の大火 (1664)水害。大雨で矢作川の堤防が挙母村で破壊 (1666)大雨で庄内川が大出水し、尾張各所の田畑が水害 (1674)暴風雨。木曾川の洪水で尾張・美濃大水害(小寅の洪水) (1678)暴風雨。洪水で尾張蒲領内の田畑・堤防・家屋に被害 (1687)水害。大雨で庄内川が出水
江戸	享保3年(1718) 7月、信濃・三河・遠江・山城の諸国で強震。三河吉田(豊橋市)では、被害の出たところがあった。 享保16年(1731) 10月、大地震あり。荷之上、五之三村(弥富市)辺の田地から砂を吹く。刈谷で御城の塀が倒れる。	(1716)享保の改革はじまる(~1745)、(1718)暴風雨で、渥美湾に高潮発生 (1722)暴風雨で尾張・三河は激甚災害。伊勢湾・渥美湾で高潮 (1731)暴風雨で矢作川堤防が挙母村で破壊、(1732)享保の大飢饉 (1767)大雨で矢作川が破堤し、流路が変化(亥年の洪水) (1782)天明の大飢饉(~1787)、(1795)暴風雨で矢作川が出水(合歡の木切れ)、(1801)大雨で菅生川・青木川・矢作川の堤防決壊 (1802)暴風雨。伊勢湾沿岸で高潮。岡崎・額田で水害。三河吉田でも被害 (1819)名古屋とその周辺に連日雷雨。雷雨によって各地に火災発生、 (1825)異国船打払令を出す (1821・1822)大雨で矢作川が出水。挙母村で破堤、(1823)大雨で矢作川が出水、(1833)天保の大飢饉 (1853)ペリー浦賀に来る (1852)大雨で矢作川が出水。額田郡・幡豆郡で破堤(天白切れ)、(1853)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1854)日米和親条約締結。大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1855)暴風雨で尾張・三河で洪水。庄内川・矢田川・新川・天白川・大高川・矢作川の堤防が決壊しはらん。河和では古布小谷の川が破堤。海西部では新田が破堤。矢作川下流の新田でも破堤。伊勢湾・渥美湾で高潮。沿岸の新田堤防や海岸堤防が決壊。下田で日米和親条約批准 (1856)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1857)大雨で豊川・庄内川が出水 (1858)日米修好通商条約調印、安政の大獄(~1859)、(1860)桜田門外の変、(1862)坂下門外の変
明治	明治24年(1891) 10月、濃尾地震。震源地は揖斐川上流域。東海・北陸・近畿地方東部、特に美濃西部から尾張北西部にかけて記録的な大被害。家屋の倒壊、死傷者多数。山崩れ、陥没、地割れ、噴砂等の地変が多く見られた。	(1868)丹羽郡入鹿池堤防の決壊(明治元年の入鹿切れ)、(1882)菅生川(乙川)の決壊はらん(三島切れ)、(1890)エルトゥールル号事件、 (1891)暴風雨で乙川・巴川の橋が流失・山くずれなど多数。矢田川などで堤防破損、(1891-1892)尾張で大雪、(1894)日清戦争はじまる
大正	大正12年(1923) 9月、関東地震。震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。壁が落ちた家、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等であり。	(1923)知多郡・東春日井郡でたつき。台風による暴風雨。名古屋港で船の流失、堀川・新堀川で木材の流失、熱田で家屋浸水、愛知郡で山くずれ
昭和	昭和19年(1944) 12月、東南海地震。津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊、流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地割れ、土砂と水の噴出、不等沈下あり。道路や橋、地下埋設管の被害もあり。堤防の損壊、海岸堤防の崩壊あり。井戸に汚濁、水位変化もあり。 昭和20年(1945) 1月、三河地震。震源地は渥美湾。矢作川下流域の幡豆(西尾市)・碧海郡(西三河地域 西部)方面を中心に大被害が集中。死者、住家全壊多数。土地の隆起・沈降、小津波もあり。 昭和21年(1946) 12月、南海地震。震源地は紀伊半島沖。津波あり。被害は中部地方から九州にまで及び。死傷者、家屋の全半壊、流失、焼失多数。	(1934)室戸台風、(1941)太平洋戦争はじまる(~1945) (1945)原爆投下・ポツダム宣言受諾、枕崎台風、阿久根台風などにより、家屋倒壊、堤防決壊、浸水被害。尾張部で大積雪 (1947)カスリーン台風ほかで浸水被害、(1950)ジェーン台風、(1954)洞爺丸台風、(1958)狩野川台風、(1959)伊勢湾台風

*年表内の「月」は旧暦で記載。 * 気象災害については、「愛知県の主な被害地震」の欄に記載した地震直近のものを記載。

○地震・津波関係 ●宝永4年(1707)宝永地震 ●嘉永7年(1854)安政東海・南海地震 ●明治24年(1891)濃尾地震 ●昭和19年(1944)昭和東南海地震 ●昭和20年(1945)三河地震 ●その他(年代不明を含む)

▲高潮、波浪関係

